

2 学校教育

【学校教育課】

施策の項目	(1) 主体的で創意に満ちた教育活動の推進
方針・目標	児童生徒の感性を磨き、思考力や表現力を高め、創造力を豊かにするため、「能代市小中学校における読書活動推進計画」(平成18～20年度)をもとに、各校の年間計画の策定を進めるとともに学校図書館図書の実を巡りながら、読書活動を推進する。
目標値	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期までに、すべての小中学校が自校の特色を生かした「読書活動年間計画」を策定し、整備・充実する。 ・学校図書館の図書の充実を図る。
事務事業の実績	<p>(1) 「能代市小中学校における読書活動推進計画」の全体構想を示す。 全体構想の視点は、次の3つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①読書活動推進研修会の設置 ②読書活動年間計画に盛り込む実践内容 ③読書環境の整備 <p>(2) 読書活動推進研修会の開催 次の4つの項目をねらいとし、小中各校の図書館担当者を対象とした研修会を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①各小中学校の実践の共有化 <ul style="list-style-type: none"> ・各校の実践の共有化を図り、市全体としての到達点と課題を確認する。また、家庭への情報提供や啓蒙の仕方を検討する。 ②市立図書館等との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・能代市立図書館等との連携を強化し、市立図書館の有効利用や団体貸し出し・出前お話し会等の活用を図る。 ③教職員の研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・実践的な研修を実施し、読書指導に関する様々な知識を得たり、技能を身に付けたりできるようにする。 ④「読書活動年間計画」の策定 <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校の実践を把握しつつ、各校の特色ある読書活動年間計画を作成する。計画の作成に当たっては、市教育研究所が形式を作成し、各校において活用できるようにした。 <p>(3) 学校図書館図書標準達成状況の改善</p> <ol style="list-style-type: none"> ①国の「学校図書館図書整備5カ年計画」に基づいて図書整備費を予算化するとともに、「学校図書館図書標準」の達成を目標とし、適切な図書の配置・廃棄を各校に助言した。 ②各校の学校図書館図書標準達成状況に応じて、予算配分の重点化を図った。 ③学校統廃合で、閉校となった学校の図書の活用を図った。

<p>点 検 評 価</p>	<p> <input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る </p> <p>[説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市教育研究所が形式を提示することで、順調に策定作業が進み、市内全小・中学校で1学期中に読書活動推進計画が完成した。また、計画的な指導や指導体制を自己診断の項目に設けたことで、各校で全校体制による指導の大切さが意識化された。 ・平成19年度の学校図書館標準達成状況は、71.8%であったが、平成20年度は、予算配分の重点化や閉校となった学校の図書活用によって、76.2%となり充実が図られた。 ・読書を好む児童は83.2%で、生徒は80.5%と多く、学校では一斉読書の時間を週当たり平均、小学校で70.5分(H18比+26.7分)、中学校で64.6分(H18比+9.0分)と多くの時間を確保し、読書環境の整備に努めてきた。
<p>課 題 及 び 今 後 の 取 組 の 方 向 性</p>	<p> <input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他() </p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の図書館の蔵書の整備をより充実させていくこと。 ・平日に30分以上の読書が身に付いている児童生徒の割合は、小・中学生とも35%程度であり、各校が各教科等の指導計画をもとに、必要な場面を検討しながら計画的に学校図書館を活用すること。 ・特色ある読書活動を教育のしる等で紹介しながら、市全体で読書活動の推進に取り組んでいくこと。
<p>学 識 経 験 者 等 の 意 見</p>	<p>○ 読書体験は児童・生徒の知的活動を推進し、心豊かな人間性を育むうえからも重要な教育活動です。</p> <p>児童・生徒が読書の楽しさと出会うためにも、学校図書館を「心のオアシス」として活性化する環境づくりが待たれます。</p> <p>教育研究所がリーダーシップを発揮しながら、各学校での読書活動を推進していることは、誠に時宜を得たものと思います。</p> <p>また、公立図書館やボランティアと協働しながら読書活動を推進していることは、読書の幅を広げたり、質的な面からも大切な取組です。</p> <p>○ 学校図書館の標準達成状況は、市当局のご配慮で文部科学省の蔵書基準を達成しつつあるようです。蔵書購入費の大部分は、国からの地方交付税で賄われています。しかしながら、地方交付税の用途については地方自治体に一任されています。これからも基準を100%充たすためにも、地方交付税の図書購入費分は、その目的のために全額配分されることが、期待されます。</p> <p>また、100%に達している学校についても、冊数だけは充たして</p>

いるものの古い本が多く、児童・生徒にとって、本当に魅力のある蔵書になっていないのではないかと懸念されます。廃棄すべきものは廃棄して、子どもたちが手を伸ばしたくなるような感動を誘う本を多く用意しておくことが学校図書館としては必要なことです。

また、文科省は学校規模に応じて司書教諭を配置していますが、現実にはその教諭の他の仕事の量を緩和して、司書の仕事に専念させることには、難しいものがあります。子どもたちにとって、図書館に行く时必须図書館の先生が居ることが望ましい姿です。

「開かずの図書館」とならぬためにも、市から司書補として、二校兼務でもよいので、一人でも多くの司書補が派遣されることが期待されます。

- 読書活動の充実、学校図書館の充実等に取り組んでいることについては高く評価できる。今後とも、充実に努めていただき、児童・生徒の人間力の向上、感受性や読解力の向上等につなげていただきたい。
- 「主体的で創意に満ちた教育活動の推進」という施策項目としては、読書活動だけでなく、学校の教育力全体の向上も視野に入れていただきたい。中心は、授業力の向上と思われるので、そのための学校での授業改善、校内研修の活性化、諸会議等の雑務の軽減などに向けて、条件整備、指導助言に取り組んでいただきたい。

施策の項目	(2) 心豊かでたくましい子どもをはぐくむ指導
方針・目標	いじめや不登校等の生徒指導上の問題に対応するため、相談体制や指導体制を整え、学校・家庭・地域が一体となって、子どもを守り育てるための体制をつくる。
目標値	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの発生件数をゼロにする ・不登校の出現率を1,000人当たり6.0人以下にする
事務事業の実績	<p>(1) 心の教室相談員の配置</p> <p>子どもたちが学校において気軽に悩み等を話せ、ストレスを和らげることのできる第三者的な存在となり得る相談者を配置し、心のゆとりをもてるような環境を提供する。</p> <p>①配置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校12校中4校(児童数400人を越える学校)に市事業で4名配置 ・中学校7校中5校(生徒数50人以下の小規模校1校と県スクールカウンセラー配置拠点校1校を除く)に市事業3名、県委託事業で2名配置 <p>②配置時間数・日数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 1日4時間、年間80日 ・中学校 1日4時間、週3日、年間32週 <p>③相談員の活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年間に心の教室を訪れた人数(延べ人数) 8,876名 (参考:配置校の児童生徒総数 3,100名) ・年間の相談件数 531件 ・相談員が初期段階で関わり、解決したケースもあった。 <p>(2) 適応指導教室「はまなす広場」の設置</p> <p>不登校児童生徒に対して、個別指導を通して学習意欲・自立心・社会性等を育て、学校復帰への手助けをする。</p> <p>(3) 「風の子電話」の設置</p> <p>電話や来所による教育相談を行う体制を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間相談件数 電話19件 来所30件 <p>(4) 不登校保護者会の開催</p> <p>不登校児童生徒をもつ保護者の援助活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月第3木曜日19:00～21:00 ・講師1名が保護者から悩みを聞いてアドバイスしたり、保護者同士

	<p>が子どもの状況や悩みについて情報交換したりしている。</p> <p>(5) 市教委としての各小・中学校への指示等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策事業に関するリーフレット等を定期的に学校に送付し、保護者に配付するよう要請した。また、教育委員会ホームページに掲載し住民に紹介した。 ・不登校等の児童生徒について、毎月（年間12回）「欠席日数」や「学校での状況と学校の対応」「欠席しているときの家庭での過ごし方」等について報告を求め、実態を把握した。 ・管内19校の生徒指導主事が集まる市生徒指導主事会を年間4回実施し、児童生徒のいじめや不登校の状況について情報交換を行い、小・中学校の連携強化と未然防止に向けた取組の強化を指示した。
<p>点 検 評 価</p>	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの発生件数は、小・中学校とも0である。 ・不登校に関しては、児童生徒1,000人当たりの出現率は7.5人である。平成20年度の国の出現率11.8人や県の出現率8.8人を下回っているものの、目標とした6.0人を越えた。 ・児童生徒による暴力行為が増加傾向にある中、管内の小・中学校での発生件数は0であり、比較的安定した学校生活が実現できている。
<p>課 題 及 び 今 後 の 取 組 の 方 向 性</p>	<p><input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関しては、学校における認知件数がなかったとしても、いじめに繋がりがねないトラブルは、児童生徒間で頻繁に発生していると考えられる。今後も、油断することなく、早期発見・早期解決を実現する体制を強化していく。 ・不登校に関しては、ここ数年間、出現率7.0人前後が続いている。毎年、新たに不登校になる児童生徒が発生しており、出現率を減少できていない。今後とも、初期対応を充実させるとともに、学校や相談機関との連携も図りながら、新たな不登校を出さない取組を行い、出現率6.0人以下を目指す。
	<p>○ いじめや不登校は「心の問題」であり、「心の問題」は人間関係の問題です。</p> <p>この背景にはストレス社会や人間関係のゆがみやひずみの問題があり、この点に着目して改善する努力が求められています。</p> <p>また、いじめや不登校の要因として、複雑な家庭の状況もあげられます。風の子電話やはまなす広場、保護者会等の指導員が、不登校の子どもを抱</p>

学識経験者等の意見

える親や教師の悩みに寄り添い、共に考え、共に歩んでくれていることは、当事者の悩みや不安の解消となり、大きな励ましともなり、今後のなすべき方向性やヒントを示唆してくれます。

- 人間関係を拒絶する不登校は、子どもにとって実に不幸なことです。人との関わりをあきらめない場や共感的援助の場づくりも、教育行政の役目のひとつと考えます。その意味からも「いつでも」「だれでも」「どこでも」気軽に相談できる実効ある体制が築かれています。

不登校の子どもに対しては、これからは、教育研究所やはまなす広場、風の子電話、保護者会等が連携を取り合い、人間関係がより醸成される自然に恵まれた環境の中での野外活動など、組織的な取り組みも検討課題のひとつと思われます。

- いじめや不登校の対応には、これが絶対という特効薬はありません。これらの問題の背景にある子どもの人間性や人間関係を把握できる大人の鋭い感覚と、大人と子ども、子どもと子どもの温かい人間関係を構築する取り組みが求められています。

- 今の児童・生徒は話すことはできても、お互いに顔を合わせて、話し合ったり、語り合うということは、苦手なようです。

学習活動や道徳、特別活動の中で、意図的に話し合い、語り合う活動を多く導入することは、相互理解に結びつき、孤独感や無気力感を取り去ることにもなります。他人の立場やよさを認識したり、自尊感情を高めるためにも大切な活動であり、結果として良き学級の風土づくりにもなると思われます。

- いじめや不登校などの生徒指導上の問題に積極的に取り組み、問題行動が少ない状況に押さえられていることは高く評価できる。

- 気にかかる点として、「いじめの発生件数をゼロにする」という目標を立てた場合、学校側がいじめの発生件数を教育委員会に申告しづらくなるのが考えられる。また、いじめの定義にもよるが、いじめは子どもの発達上、避けがたい課題、克服すべき課題でもある。むしろ、いじめへの取り組みの強化を目標に掲げた方がよいように思える。

- いじめも、不登校も、根本的には学校生活を楽しいものにする、家庭・地域と連携して子どもを見守る体制をつくることでしか解決しないだろう。児童・生徒の、学校に対する満足度を高めることなどに目標を設定してもいいように思える。

- カウンセラーや適応指導教室等の取り組みと同時に、それらと学校・教職員との連携が必要なように思える。不登校の児童・生徒を学校外、教職員外に預けてしまうのではなく、学校・教職員自身も連携や研修などを通じて、変わっていくことが求められる。